

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 24 日

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏名	佐藤 哲彰
研究課題	学生の授業における内発的動機への外的動機付けのアンダーマイニング効果について等				
研究キーワード	動機付け、内発的、ボラン ティア、	当年度計画に対す る達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を 達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連する SDGs項目	4. 質の高い教育をみん なに	8. 働きがいも経済成長 も	16. 平和と公正をすべて の人に	17. パートナリーシップで 目標を達成しよう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>今期は、金銭報酬だけでなく、ナッジも外的動機付けと捉えたかのようなアンダーマイニング効果について、レビューワークを行った。Titmuss(1970)は金銭報酬の導入が献血行動を阻害し得ることを示し、Deci(1971)はパズル解きに金銭報酬が与えられると、金銭報酬が取り去られた後にパズル解きへの努力が減少することを示した(他の同様の研究として、Gneezy & Rustichini 2000, Reich et al. 2006; Mellström & Johannesson 2008; Goette et al. 2009; Lacetera et al. 2012 など)。金銭報酬がそのような効果をもたらすのは、金銭報酬それ自体ではなく、「カネに踊らされて働かされている」という感覚が自律性を脅かすことを通してであるとされ、Deci らの「自己決定理論」の中核となっている(Deci & Ryan, 1985; Ryan & Deci 2000)。</p> <p>行動経済学における「ナッジ」には、それが自由かつ自律的な決定を脅かしてはならないという原則がある。しかしナッジも周知が進むにつれ、他人からナッジによって操られ踊らされている、自律性を脅かされていると捉えられる可能性が高まる。その場合は(cf. Brehm & Brehm 1981)、望ましい行動をかえって阻害し得ることが近年明らかになっている(Sunstein 2017; Arad & Rubinstein 2018; Jachimowicz et al., 2019; Bolton et al., 2020 など)。ナッジは自律性への侵害以外にも、あるいは自律性侵害と関連して、「その人は道徳的に良い人だ」という社会的認知をナッジが脅かすことで、かえって好ましい行動を阻害する可能性も指摘されている(Wu & Jin 2020)。なお Grad et.al. (2021)は慈善事業への寄付において、ナッジによって操作されていると感じなかった場合は、ナッジは寄付を促進するものの、操作されていると感じた場合には、ナッジは寄付行動にも寄付による満足感にも「影響を与えない」という程度であって、ナッジが内発的動機をアンダーマイニングする(掘り崩す)効果は誇張されすぎているのでは、としている。社会的認知がかえって内発的動機を弱めることを示唆する研究もあり(Savary & Goldsmith 2020)、日本においてもしばしば匿名の寄付が行われることから、自律性侵害のおそれによる直接的効果と、社会的認知を経由した間接的効果の複雑な重複的關係をうかがわせる。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等 (査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)</p> <p>【論文 (査読あり)】</p> <p>なし</p> <p>【著書・論文 (査読なし)】</p> <p>なし</p>					

【学会発表等】

2022年11月30日の国府台学会経済研究会において、「市場メカニズム・共同体メカニズムと大垣大竹経済学、外発的・内発的動機、治道家とソーシャルビジネス」という題で、「利己的な」市場メカニズムと「利他性を含む」共同体メカニズムの関係や幸福感との関連に関するレビューワークの発表を行った。

3. 主な経費

文献購読のための機器購入、研究会費、文献レビュー用の書籍購入費など。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

生活経済学会の企画担当理事の業務を行った。

(本文は2ページ以内にまとめること)